

I 千歳っ子がのびのびと生きる力を身に付け成長していける環境づくり

基本目標	施策	事業名	事業内容	H19	年次計画			所管課	平成22年度		番号
					H20	H21	H22		取組実績等	進捗状況	
								取組実績等	実施課題・平成23年度以降の方針等	番号	
教育機会の拡充	富丘中学校仮設校舎整備事業 【新規】	生徒数増加による教室不足に対応するため仮設プレハブ校舎を設置	・構造 軽量鉄骨造2階建 ・規模 普通教室6教室、トイレ男女各2箇所 ・リース期間 H19.10~H24.10	H19.10 供用開始				企画総務課	・平成19年10月から供用開始中。	・仮設プレハブ校舎は、分離校となる勇舞中学校が開校する平成24年度までリース予定。以後については、検討中。	-
		富丘中学校の大規模化を解消し、良好な教育環境を確保するため、平成24年度に分離校を開校	※関連事業：富丘中学校分離校 基本構想検討会議運営事業 (H19-H20)		基本構想	基本設計	実施設計	企画総務課	・実施設計の策定（校舎・講堂・武道場・外構）。 ・校舎の建設工事に着手。	・講堂、武道場 H23工事着工 ・外構（グラウンド整備） H23 工事着工 ・外構（前庭、駐車場等） H24 工事着工 ・平成24年4月開校予定	1-1-1
		富丘中学校分離校の建設計画において、学校の特色や施設整備等に関する基本的な考え方を検討する。	・委員構成 学校関係者、保護者、自治会等の代表 ・検討期間 H20.3~H20.9	H20.3 会議開始	基本構想 策定			企画総務課	・基本設計(案)を策定する過程で、配置計画や平面計画などの概要について議会に報告するとともに、保護者を対象とした説明会を開催。	・基本構想を平成21年3月に策定したため、検討会議設置要綱に基づき終了。	1-1-2
	二期制の導入 【新規】	平成20年度から全小中学校における二期制を一斉導入			一斉導入			学校教育課	・平成20年4月1日から、小・中学校（全26校）において実施中。	・石狩管内には三期制の学校もあり、行事日程の調整に苦慮している状況が見られる。 （中体連、学校祭、前期評価時期の重なりなど） ・学校行事等の計画策定にあたり、早期の情報収集や関係機関等との調整が必要。	1-1-3
		英会話指導事業	・小学校における英語教育を一層推進するため、市民ボランティアによる英語指導員を派遣する。 ・小学校においても外国人英語指導助手を派遣し教育の拡充を図る。					学校教育課	・英語に堪能な市民講師や、市民協働事業として英語ボランティア団体の協力を得ながら、特色ある授業を実施 ・新たに外国人英語指導助手1名を小学校に派遣。	・外国人英語指導助手や市民講師の派遣を継続する。 ・平成23年度から、新たに外国人英語指導助手2名を採用し、3名体制で小学校に派遣。	1-2-4
	学校教育の充実	外国青年招致事業	・中学校における英語学習を支援するため、外国人英語指導助手を採用し各中学校に派遣する。					学校教育課	・英語指導助手2名を中学校等に派遣。	・継続して、2名の英語指導助手を中学校へ派遣。	1-2-5
		グローバルスクール活動事業	グローバルな視点で考え、足元（ローカル）から行動する教育活動。総合的な学習の時間において、生きる力の育成等、各小中学校の創意と工夫を生かした特色ある教育を推進する。					学校教育課	・小・中学校において、総合的な学習の時間、特別活動等の中で、環境、福祉、キャリア、食育、情報教育などの要素を取り入れながら実施。 補助金交付実績 小学校：4,500千円（131事業） 中学校：2,000千円（30事業）	・継続して実施。 ・学校運営（配当）予算と重複しないよう補助内容の精査が必要。	1-2-6
		特色ある教育活動支援事業	・「総合的な学習の時間」を活用した文化教育活動を推進 ・地域人材の活用					学校教育課	・文化教育活動 ①国際理解活動（サンドレイク小学校への訪問、食を通じた異文化の理解） ②アイヌ民族伝統的文化学習（チセを活用した学習、アイヌ伝統文化の体験） ・地域人材の活用 ①地域の人材をゲストティーチャーとして招いて実施（アイヌ文化学習、国際理解教育、農業体験、環境学習、福祉体験など）	・継続して実施 ・総合的な学習の授業時数の削減により、他教科を横断した取り組みが必要。	1-2-7
		サイエンス会議開催事業	千歳科学技術大学を会場に、小中学校の児童生徒が総合的な学習の時間で取り組んだ成果を、それぞれが工夫を凝らした内容で発表					学校教育課	・千歳サイエンス会議の開催 日 時：平成23年2月26日（土） 場 所：千歳科学技術大学 参加者：小中学校16校・19グループ、児童生徒97人、教員31人、見学者・保護者157人 概 要：グループごとにテーマを取り上げ、調査・研究の結果を発表。	・参加者を多くするための検討 参加校や参加人数が漸減しているため、多くの学校が参加するための工夫・方策が必要。	1-2-8
		電子学習システム活用支援事業	千歳科学技術大学の開発による電子学習支援システム「eラーニングシステム」を活用した、家庭学習支援事業「eカレッジ」を推進 ・学校での授業及び家庭学習での活用					学校教育課	○eラーニングシステムを活用した授業 ・アカウントの発行 ～ICT推進協力校（千歳小学校、富丘中学校） ○eカレッジ（家庭学習支援）の推進 ・参加者 小学生95名、中学生45名 合計140名	・千歳科学技術大学と連携しながら、継続して実施。 千歳市教育機器活用研究連盟を活用した研修会の実施により、ICT推進協力校を増やすとともに後継者となる担当教員を育成する。	1-2-9
		小中学校教育用コンピュータ整備事業	市内小中学校における情報教育の推進を図るためパソコンを整備する。 機器更新：大規模校42台/校、小規模校5~15台/校	小学校 15校 564台 (更新)			(H24以降に更新する)	企画総務課	・イントラネット用パソコンの配置に関する方針に基づき更新する。 (更新は7年サイクル)	・継続使用	1-2-10
		子ども科学実験への参加	・千歳科学技術大学による小学校への出前授業 千歳・ECOラーニングフォーラム ・中学生を対象とした光に関する講義と実験 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト					学校教育課	○小学校への出前授業 ・4校（千歳小学校、緑小学校、高台小学校、桜小学校） ○中学生を対象とした光に関する講義と実験 ・サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（千歳中学校）	・小学校への出前授業（継続） ・中学生を対象とした光に関する講義と実験（継続） ・科技大学生のインターンシップ（職業体験）活用	1-2-11
	教職員研修事業	・地域と学校のつながりが希薄になる中、地域から信頼される教員を育成するためにも、地域を知るための研修を開催する等、教育研修の充実を図る。					学校教育課	・新規採用の教諭に対し、市の特徴や教育活動に役立つ施設見学、体験を実施。 ・千歳市教育振興会主催事業や各学校の特色ある授業の見学、体験を実施。	・市が実施する初任者研修と千歳市教育振興会が主体となる各種研修活動を継続して実施。	1-2-12	

I 千歳っ子がのびのびと生きる力を身に付け成長していける環境づくり

基本目標	施策	事業名	事業内容	H19	年次計画			所管課	平成22年度		番号
					H20	H21	H22		取組実績等	進捗状況	
学校教育の充実	特別支援教育体制推進事業	特別支援教育体制推進事業	・専門家チームを核とした各小中学校における特別支援委員会の設置や個別指導計画の策定、窓口機能の強化等、総合支援体制を充実させる。 ・個別指導計画に基づき特別支援教育支援員や児童生徒ヘルパーを配置する。 ・特別支援教育のあり方について検討（保護者、障がい者支援団体、教育機関）				学校教育課	○専門家チーム 会議開催数3回 巡回相談件数 延べ168回 ○各校特別支援委員会の設置 26校（うち2校は小中併置校） ○特別支援教育支援員・児童生徒ヘルパー配置状況 ・特別支援教育支援員24名（17校配置） ・児童生徒ヘルパー21名（特別支援学校設置校6校配置） ○特別支援教育研究会の開催（8回） ・「特別支援学校の配置の在り方について」を教育長に提言。	○特別支援教育支援員等の配置 平成22年度 24名 → 平成23年度 29名 今後も対象児童・生徒数の推移を把握しながら支援員の配置を検討する。 ○特別支援教育研究会 ・千歳市特別支援教育のあり方について継続して研究を行う。 ・課題：研究会の提言を踏まえて、特別支援学校の配置の在り方を検討する。	1-3-13	
		特別支援教育体制推進事業（再掲）	・北進小中学校の機能を充実させ総合支援体制の基盤を強固にする。 ・中学校における特別支援学級の配置等に関する課題研究（保護者、障がい者支援団体、教育機関）				学校教育課	・同上	・同上	1-3-14	
		特別支援教育体制推進事業（千歳市への道立高等養護学校誘致期成会設立）	・道立高等養護学校の誘致活動を積極的に展開する。				学校教育課	○平成22年6月 道議会に提出した請願書が採択される。 ○平成22年9月 北海道知事、北海道教育委員会教育長へ要望書提出。 ○道立高等養護学校の誘致に向けた条件・課題の整理。	・継続して実施 ・道立高等養護学校の誘致実現に向けた条件・課題の整理を継続実施。	1-3-15	
千歳っ子を育むための家庭教育の充実	家庭における教育力の向上	【新規】 両親教室（妊娠期）	妊娠中に、親となる心構えや夫婦で子育てを考えるきっかけづくりを目的に「体験パパクラブ（6回/年）」「わくわくママクラブ（12回/年）」と称して両親教室、両親教室を実施している。				健康推進課	○体験パパクラブ ・回数6回、参加者110組、延べ参加者数220人、1回の平均参加者数18組。 ・金曜日（夜間）2回、土曜日（午後）4回実施 ・金曜日の平均参加者数 12.5組、土曜日の平均参加者数 21.2組 ○わくわくママクラブ ・回数12回、参加者実数126人、参加者延べ数227人 ・育児コースをアリス子どもセンター、ちとせっこセンターで実施。 ・地域子育て支援センターの内容を紹介し、子育てに関する各種サービスを早期に案内する機会とした。	○体験パパクラブ ・地域の情報誌等を通してパパクラブのPRを実施。 ・新コースを開設し子育て支援センターと連携し、子育て支援センターでの実施を検討。 ・パパの育児参加について、働きかけを強化する。 ・開催曜日変更の検討（金曜日は参加者が少ないため、土曜日に移行する）。 ○わくわくママクラブ ・継続して実施。 ・対象者に電話勧奨などの検討。	2-4-16	
		【新規】 新生児訪問事業	全国的に育児不安を抱える事例や乳幼児虐待の事例が増加してきており、加えて、千歳市の特徴として核家族が多く地域から孤立しやすい背景があること等から平成19年度より生後4か月までの乳児を持つ全家庭を対象に訪問事業を実施しており、育児に関する情報提供や発育、育児に関する相談対応を行っている。				健康推進課	○自宅を訪問し、身体計測を行い、発達や育児、母乳栄養などの相談に応じている。 ・赤ちゃん訪問実数 884件 未熟児訪問実数 94件 ・赤ちゃん訪問延べ数 887件 未熟児訪問延べ数 104件 ○スタッフ質向上のための研修会を充実（平成22年度から1種非常勤職員2名、2種非常勤職員1名体制で実施） ○未熟児訪問の実施	・継続して実施 母乳育児、育児不安などの解消 ・育児不安解消のため、状況の把握や適切な訪問に努める。	2-4-17	
		乳幼児健康診査	発育・育児状況の確認と疾病や障害を早期発見するなど、養育者が健康に安心して育児できるように支援するため、3か月児対象の股関節脱臼検診、4か月児健診、10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診等を実施しており、受診率は90%～97%の高い受診率を維持している。（全国平均50～80%）				健康推進課	・股関節脱臼検診 受診者数 938名 ・4か月時健診 受診者数 977名 ・10ヶ月児健診 受診者数 907名 ・1歳6ヶ月児健診 受診者数 942名 ・3歳児健診 受診者数 931名	・継続して実施。 ・未受診者の状況把握と受診勧奨。 ・健診内容等の随時検討。 ・未受診の転入者について、受診勧奨と状況把握。	2-4-18	
		育児相談	毎月2回、「育児相談」として、保健センターにおいて身体計測、育児・栄養・発達・歯科等の相談に応じ養育者の子育て支援を行っている。 また、乳幼児健診未受診者の中には養育上の問題を持った家庭や上手に自ら支援を求めることが出来ない養育者等も想定されることから、乳幼児健診後支援が必要と判断されるケースとともに訪問相談等も実施している。				健康推進課	○育児相談 ・毎月2回保健センターで実施。 来庁相談者実数1,008名、延べ来庁相談者数2,559名 ○家庭訪問 ・必要者に対して家庭訪問を行い相談支援を実施。 訪問実数 286名、訪問延べ数 380名	・継続して実施 ・相談内容の充実 ・利用者アンケートの実施 ・開催場所の検討（子育て支援センター）	2-4-19	
		健康教育	乳幼児健診や育児相談等でも健康に関わる指導等を行っているが、思春期の児童生徒を対象としたところと体に関する教室や出前講座制度を活用し歯科保健、栄養・食生活等に関する各種健康教室を随時実施している。				健康推進課	○健康教育 ・開催数 61件、参加者数 3,430名 ○テーマ ・子どものおやつや食事に関すること ・離乳食について ・むし歯予防について ・子育てに関すること ・子どもの事故防止 ・思春期の心と身体について など	・継続して実施。 ・テーマに合った内容の充実。	2-4-20	
【新規】 子育て総合支援センター整備事業	保育所、学童クラブ、児童館、地域子育て支援センターなどのさまざまな機能を複合的に持つ「子育て総合支援センター」を整備し、子育て相談などの各種子育て支援事業の実施をはじめ、子育てに関するボランティアの育成を図るなど、地域における子育て支援の拠点整備を推進する。 ・H20.4 開設予定	建設工事	開設			保育課	・平成19年度までに建設工事を完了し、平成20年4月に開設。	・地域における子育て支援の拠点として運営。	-		
【新規】 地域子育て支援センター運営事業	地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図り、子育てに対する不安や負担感を軽減し、地域の子育てで家庭への支援を行うため、子育て相談、子育てサロン、子育て講座、地域子育てサロン支援、子育てサークル支援、子育てボランティア育成などの事業を実施する。 ・H11.4 アリス子どもセンター設置（アリス保育園内） ・H20.4 ちとせっこ子どもセンター設置予定（子育て総合支援センター内）		ちとせっこ子どもセンター開設			保育課	○子育て支援センター ・センター利用者数 延べ30,343人（登録 2,713世帯 相談件数 524件） ・子育てを直接サポートする各種支援事業（利用人数 延べ7,512人） ・子育て基盤整備事業 ボランティアの育成 ネットワーク会議の構築 ～ちとせ子育て支援ネットワーク会議（4回実施～5月・7月（研修会）10月・2月） ～市内46か所の子育て支援各関係機関・市民団体等で構成 ～子育てネットワーク通信～ちとせ～ 4回発行 センター情報 ～センター通信発行、ホームページ、メール配信、ポスター掲示等 ・地域交流事業（世代間交流）12回 ・子育て活動団体支援事業 地域子育てサロン支援、みんなの広場、出前講座、サークル立ち上げ支援 ○アリス子どもセンター ・子育て支援事業（子育てサロン・育児サークル・子育て講座等） 利用延べ人数5,006人（うち子育て相談件数 377件）	・ネットワーク協力体制の強化。 ・事業や参加定員の拡大。 ・利用者のニーズに沿った各種子育て支援事業の計画・実施。	2-4-21		

I 千歳っ子がのびのびと生きる力を身に付け成長していける環境づくり

基本目標	施策	事業名	事業内容	H19	年次計画			所管課	平成22年度		番号
					H20	H21	H22		取組実績等	進捗状況	
千歳っ子を育むための家庭教育の充実	家庭における教育力の向上	つどいの広場事業 【新規：移転】	乳幼児をもつ親とその子が気軽に集い交流するとともに、子育てに対する不安や悩みに対して、子育てアドバイザーが相談・援助する。また、子育てに関する情報提供などを行う。 ・H17.6 図書館2階に設置 ・H20.4 子育て総合支援センター内に移転（「市提案型」協働事業として実施）		子育て総合支援センター内に移設			保育課	・利用人数 延べ23,692人（親子教室含む） 親子教室 11回実施 参加人数 延べ1,280人 ※子育ての不安軽減や育児のストレス解消に大きな効果を上げている。	・内容の充実（ちとせっこどもセンター、健康推進課との協働体制強化） ・スタッフの質向上	2-4-22
		地域交流事業（出前講座、児童館、地域子育てサロン）	・子育て中の親子に施設を開放し、地域における交流の場づくりや情報提供を行う。 （関連事業：地域訪問交流事業） 市立認可保育所の保育士が町内会、コミュニティセンター、児童館など地域に訪問し、遊びの紹介や育児情報の提供を行う。（H20年度からは、「ちとせっこどもセンター」の事業として実施予定）				保育課	○所庭開放 公立3保育所で各週1回、9:30～12:00（北菜11:00）まで解放。 ・利用延べ人数：未広保育所 314人 北菜保育所 31人 真々地保育所 0人 ○ちとせっこどもセンター事業 ・出前講座 実施件数 11件 ・児童館交流 実施回数 13回 ・地域子育てサロン 実施回数 4回	・出前講座の利用者増を図るため、メニュー内容の変更等について検討。 ・地域子育てサロンや児童館交流を通し、地域のネットワーク強化を目指すとともに、子育てサークル活動や地域で様々な活動が展開できるような環境作りを努める。	2-4-23	
		子育て支援ホームページ作成事業 【新規】	子育て家庭の子育て力の強化を図るため、市ホームページに子育て支援のホームページを作成し、子育てに関するさまざまな情報を一元的に受け取りやすい形で提供し、子育て家庭や地域の利用を促進します。（H20年度開設予定）		準備・開設			子育て推進課	・子育て支援ホームページ「ちとせ子育てネット」の運営管理。 トップページ画面全体のレイアウトの変更により、利便性の向上とイメージアップを図る。 ちとせっこどもセンター情報のバナー設置 子育てメッセージの更新	・関係課との連携体制構築。 ・円滑な管理運営。	2-4-24
		家庭教育講座開催事業	ママさん教室、すこやか子育て講座、家庭教育講演会、出前子育て講座、男性のための子育て講座、親愛訓練講座の開催					生涯学習課	・『ママさん教室』（乳幼児を持つ母親等を対象）参加者55名。 ・『すこやか子育て講座』（ママさん教室の一般向け）8回開催 参加者70名。 ・『家庭教育セミナー』（子育てを終えた市民）参加者44名 ・『子育て出前講座』（市民の自主的な家庭教育学習を支援）2団体から依頼 参加者41名 ・『男性のための子育て講座』（講義編+実践編で2回実施）参加者 延べ80名 ・『思春期子育て応援セミナー』参加者16名	・現在の家庭環境における課題を捉えたテーマの設定検討。 ・市民ニーズに合った内容の検討。	2-4-25
		P T A活動支援事業	家庭教育に対する意欲の高揚と資質の向上を図るため、千歳市PTA連合会の活動を支援（運営費の一部を補助）					生涯学習課	・千歳市PTA連合会の活動運営費の補助金交付。 ・石狩管内PTA連合会研究大会（恵庭大会）への参加（75名） ・提言（2単P）や中学校区交流事業の実施	・継続して支援。	2-4-26
		企業に対する仕事と家庭の両立推進事業	企業の子育て支援に係る意識醸成を図るため、市及び企業関係者等で組織する推進協議会を設置し、講演会等の事業を実施するほか、「ファミリーフレンドリー企業認定制度」の導入の検討を進めます。 ・H18 アンケート調査実施（対象538事業所、回答160） ・H19 協議会の設置に向けた協議・調整 ・H20～21 協議会の設置、講演会等の実施 ・H22 「ファミリーフレンドリー企業認定制度」導入予定		協議会設置、講演会等の開催	ファミリーフレンドリー企業認定制度導入事業		子育て推進課	・千歳市子育てにやさしい企業推進懇話会 年5回開催 ・仕事と家庭の両立推進に関するアンケート調査の実施（1,000事業所を対象） ・仕事と家庭の両立推進セミナーの開催 参加者32人	・ファミリーフレンドリー企業認定制度の導入にかかる具体的な方向性を含む、今後の両立推進事業のあり方について検討。 ・平成23年度以降は、多角的な視点から普及啓発活動を検討・実行することで、企業意識の高揚を図る。	2-4-27
	安全安心な環境の整備	不審者情報携帯メール配信事業 【新規】	防犯に対する啓発活動として、携帯電話のメールを活用した不審者情報の配信を行う。 ・H20.4から実施予定		配信サービス開始			青少年課	・不審者や不審電話の発生時、メール配信を行い注意喚起をしている。 市のホームページや携帯電話サイトにも不審者情報を掲載（登録者数 約750名）	・利用者増を図るための周知方法について、継続して検討。	2-5-28
		千歳っ子見守り隊支援事業	各小学校の子ども達が、安全で安心して登下校出来るよう、保護者や地域の方々による見守り・声かけ活動を実施 ・ボランティア登録者数 約1,300名					青少年課	・子供たちの登下校時に通学路での立哨・巡回を実施。 千歳っ子見守り隊 隊員数（ボランティア）約1,100名	・学校、地域、PTA等との連携強化。	2-5-29
		子ども110番の家登録事業	子どもが不審者や事故などに遭遇した時に助けを求める場所を子ども110番の家として登録（ステッカー表示） ・家登録件数 約1,000件					青少年課	・子ども110番の家 登録件数 1,084件（前年比5.7%増）	・継続して実施。	2-5-30
		学童クラブ事業	昼間保護者のいない家庭の小学1年生から3年生までの児童を受け入れ、遊びを主体とする育成活動を行う。 ・学童クラブ設置数 市内13カ所					保育課	・北陽児童館内に、なかよし学童クラブ、にじいろ学童クラブを開設（定員各40名）。 市内の学童クラブ 14カ所 定員460名。	・未設置地域における学童クラブの開設や狭隘となっている学童クラブの分割の検討。 ・指導員の育成。	2-5-31
		児童館事業	0才児からの子どもたちが楽しく遊び豊かな感性を育くむ場を提供する。 ・児童館設置数 市内6カ所					保育課	○市内8カ所目の「ほくよう児童館」が平成22年4月設置。 ○日曜開館の実施（ほくおう児童館、いずみさわ児童館） ・子育て支援を行なうボランティアや子育てサークルの団体を対象	・地域の特色を生かしながら、行事や内容の充実を図る。 ・指導員の育成。	2-5-32

I 千歳っ子がのびのびと生きる力を身に付け成長していける環境づくり

基本 目標	施策	事業名	事業内容	H19	年次計画			所管課	平成22年度		番号	
					H20	H21	H22		進捗状況	取組実績等		実施課題・平成23年度以降の方針等
安全 安心な 環境の 整備	安全安心な環境の整備	児童館設置事業（子育て総合支援センター内） 【新規】	ちとせっこ児童館設置事業（子育て総合支援センター内）	建設工事	開館			保育課	・平成19年度までに建設工事を終了し、平成20年4月子育て支援センター内に開設。	・児童館行事を充実させ、気軽に利用できる交流の場の拡充を図る。 ・地域の特性を活かした取り組みの拡充を図る。	-	
		(仮称)北陽地区児童センター整備事業 【新規】	(仮称)北陽地区児童館設置事業	基本設計 実施設計	建設工事	開館 (予定)		保育課	・平成22年4月開設	・多くの市民が利用できるよう周知の徹底。 ・地域の特性を活かした取り組みの検討。 ・民生委員や町内会等との連携。	2-5-33	
		放課後子どもプラン推進事業 【新規】	放課後の子どもたちの適切な遊びや生活の場を確保し、地域の方々との交流活動などの取組を実施する。 ・H20 モデル校となる小学校を選定 運営委員会設置 事業プログラムの検討 ・H21 事業開始	調査検討	モデル校選定、運営委員会設置	モデル校で事業開始	モデル校事業継続及び事業検証		生涯学習課	○放課後子ども教室“わくわくひろば「北栄っ子」”の開設 ・開設日数32日（5月から3月、毎週水曜日、休日・学校行事日など除く） ・利用登録児童 ～通常学級110人（登録児童割合45.5%）、特別支援学級20人（登録児童割合69.0%） ・支援登録者数26人（学習アドバイザー2人、安全管理員24人） ・活動内容 ～自主学習、体育館での自由遊び・スポーツ、理科・英語教室、お茶・お花、読み聞かせ等	・支援体制構築に向けた人材（ボランティア）の確保。 ・コーディネーター（総合的な調整役）の養成。 ・安全管理体制の検討。 ・特別支援学級への対応。 ・学童クラブや児童館事業との連携。	2-5-34
	千歳っ子を育むための家庭教育の充実	いじめ対策の充実	スクールカウンセラー配置事業 【新規】	児童の問題行動、いじめ・不登校など学校生活における適応上の諸問題や心理的な悩みを持つ児童が増加してきており、諸問題等の未然防止・早期解決をはかるためスクールカウンセラーと心の教室相談員が連携した教育相談機能の充実を図る。（平成19年8月より実施）					青少年課	○千歳市スクールカウンセラー配置状況 ・小学校4校（第二小学校、信濃小学校、高台小学校、泉沢小学校）各校月1回/6時間 ・スクールカウンセラーによる教育相談～月2回（青少年課相談室） ○北海道スクールカウンセラー配置状況 ・H21配置校～9校 （千歳中、真町中、青葉中、向陽台中、富丘中、北斗中、北進中、日の出小、北陽小） 週1回4時間/31週 ○状況～スクールカウンセラーが有している臨床心理に関する高度な知識・経験に基づいて、問題行動の未然防止や早期解決が図れるよう、児童生徒や保護者、教員に対してアドバイス等を行っている。（相談件数637件）	・教育相談の内容が複雑・多様化しているケースが増加し、長期化の傾向にある。 ・相談時間数の増など、体制の拡充を検討。	2-6-35
			心の教室相談員配置事業 【新規：増員】	児童の問題行動、いじめ・不登校など学校生活における適応上の諸問題や心理的な悩みを持つ児童が増加してきており、諸問題等の未然防止・早期解決をはかるためスクールカウンセラーと心の教室相談員が連携した教育相談機能の充実を図る。（平成20年より相談員を増員）	相談員増員				青少年課	・休み時間に多くの子ども達が訪れ、話し相手をしたり、悩み事の相談を受けている。 ・平成22年度配置校～小学校13校 （千歳小、北栄小、末広小、緑小、千歳第二小、日の出小、信濃小、高台小、祝梅小、桜木小、向陽小、北陽小、泉沢小） ・週2回/各4時間（各学年間280時間） 相談件数539件	・利用しやすい環境の整備 ・相談時間数の増などを検討。	2-6-36
			さわやかDAYいじめシンポジウムの開催	千歳市教育委員会と千歳市いじめ・不登校等対策会議の主催により平成9年から開催している。 ・参加者 H19：362名 H18：366名					青少年課	○ななよきさわやかDAYいじめシンポジウム 開催日：平成22年11月27日 場 所：千歳市民文化センター テーマ：「認めあおう、支えあおう、大切にしたい思いやりの心」 参加者：481名	・継続して実施。	2-6-37
千歳市いじめ・不登校等対策会議との連携	学校や関係機関における密接な連携と情報交換を図りながら、いじめ・不登校等の対策を検討						青少年課	○小中学生のいじめや不登校等の問題を改善するため、教育関係者やPTA、民生委員などで構成する 「千歳市いじめ・不登校等対策会議」を年3回開催し、その対策について検討している。 ・第1回（H22.6.18）H21いじめ・不登校の状況報告、学校適応指導教室「おあしず」の実践報告、H22事業計画、いじめシンポジウムの計画 ・第2回（H22.10.18）いじめシンポジウムについての協議、不登校の現状、学校適応指導教室「おあしず」の活動状況。 ・第3回（H23.2.24）H22事業報告、不登校の現状、学校適応指導教室「おあしず」の活動報告 いじめシンポジウム実施結果報告、H23事業計画。	・継続して実施。	2-6-38		
青少年健全育成事業	子供たちの思いやりの心や道徳観、倫理観などの規範意識を身につけることができるよう、ボランティア、ものづくり、自然体験、世代間交流などの各種体験活動を実施する。	各種体験学習事業の開催					生涯学習課	○子ども放送局チャレンジ教室（出前講座含む）全13回、576名参加。 ○子ども活動支援センター設置 ・情報紙「マナビー」の発行（毎月） ・少年団体一覧表の発行（年1回）	・各事業の実施にあたっては、市民ボランティアの自主性を重視するよう心掛けるとともに、子供たちの体験活動の機会を充実することや地域で子供の健全育成を支援するよう努める。	2-6-39		

II 人の魅力で輝く生涯学習都市千歳の実現

基本目標	施策	事業名	事業内容	H19	年次計画			所管課	平成22年度 進捗状況		番号
					H20	H21	H22		取組実績等	実施課題・平成23年度以降の方針等	
地域資源の活用による生涯学習の推進	郷土財産の保護、活用、充実	千歳サケのふるさと館教育事業	・青少年及び市民のための学習講座、体験学習、講演会、展示会の開催 ・市内小中学校の総合的な学習の時間等、地域特性を生かした学習活動に活用				生涯学習課	・サタデースクール、水族館水槽の大掃除体験、夏休みおさかな写生大会、アクアリウムナイトツアー、ちとせ千歳あそび、矢口高雄、嶋田忠二人展、武内朋之絵画展など、千歳市の地域資源と特性、季節ごとの自然環境を活かした体験学習活動や展示会等の実施支援。	・千歳市の豊かな自然環境を活かし、青少年をはじめ多くの市民に対して様々な体験学習の機会を提供し、自然環境に対する愛着と理解を深め、郷土愛を育む事業を実施できるよう支援。	3-7-40	
		埋蔵文化財センター移転整備事業【新規】	現センターの老朽化・狭小化に対応するため旧長都小中学校を改修し、現センターの機能を移転するとともに、文化財の展示や体験学習などの教育普及活動機能を付加し、埋蔵文化財の保存や活用との観点となる施設にする。	調査 基本構想	実施設計 改修工事	改修工事	埋文センター	・移転整備終了。常設展示室、企画展示室、レクチャールーム、体験学習室を新設。 ・平成22年4月1日 新埋蔵文化財センター開所。	・平成19～21年度で事業終了。	3-7-41	
		文化財保護普及事業	次世代を担う子どもたちや市民が、ふるさとの自然や歴史、文化財などの多様な姿について理解を深めるよう体験的な学習などを行っている。 例 体験学習「人と自然の歴史を知る旅」、展示会「収蔵資料展」、講座「ふるさと探訪」など				埋文センター	○常設展示（会場：埋蔵文化財センター） ・見学者 1,298人（市内1,106 市外192）（13団体・3小中学校、延べ454人） ○企画展示「展望 千歳アイヌ文化」（会場：埋蔵文化財センター） ・見学者227人 ○講演会 2回実施 ○「千歳市埋蔵文化財センター」パンフレット 3月発行 ・内容：展示室案内（写真説明） 発行部数：50,000部	・継続して実施 ・文化財を題材とする体験学習を追加。	3-7-42	
		史跡の保存管理業務	市内には国指定史跡「キウス周堤墓群」・「ウサクマイ遺跡群」、市指定史跡「美々貝塚」があり、これらを適切に保存し後世に伝えられるよう管理している。				埋文センター	○市指定史跡「美々貝塚」 ・史跡内の清掃・草刈などの環境整備。 ・史跡の名称看板、見学案内看板・駐車場指示看板を更新（1月、3月） ○国指定史跡「ウサクマイ遺跡群」 ・史跡内の倒木処理など環境整備。 ○国指定史跡「キウス周堤墓群」 ・史跡内の草刈・清掃など環境整備。	・環境整備を継続して実施。	3-7-43	
		市指定文化財保存伝承活動補助事業	当市の指定文化財である郷土芸能「泉郷獅子舞」や伝統文化「アイヌの伝統的芸能と工芸技術」を次世代に継承していくための活動を支援している。				埋文センター	・泉郷獅子舞保存会、千歳アイヌ文化伝承保存会の伝承活動に対し補助金を交付。	・伝承活動の補完的な支援を継続。	3-7-44	
		プラネタリウム運営事業	毎週土・日・祝日の15時から投影を行っているほか、「星の音楽会」や「プラネタリウム体験教室」などプラネタリウムを活用した自主文化事業を行っている。また、機材の更新など魅力ある番組の提供について検討を行う。				文化施設課	・投影回数 132回 ・利用者数 合計3,356人 （内訳）市内中学生以下1,325名、市内一般835名、市内65歳以上64名、市外132名。	・機材の劣化が進んでいることから、更新について検討。	3-7-45	
社会教育施設の活用とネットワーク化の推進	生涯学習情報提供ネットワークシステム整備事業【新規】	社会教育施設を中心とした生涯学習に関する施設や資源・人材・事業などの情報をデータベース化し、効率的、効果的に提供することにより、市民の主体的な生涯学習を支援する。			基本構想 実施設計 (H23) システム整備	生涯学習課	・生涯学習に関する情報などの提供は、ミナクルを運営している「一般社団法人ちとせタウンネット」と協定書を締結して実施。 ・ミナクルのホームページで、さらに効率的・効果的に提供。	・ミナクルの機能充実を努める。 ミナクルのホームページによる効率的、効果的な情報提供。 まちづくり活動を行うセンター機能の充実。	3-8-46		
	公民館運営事業	市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図るための学習機会を提供し、市民の自主的・主体的な活動を促進する。 ※平成20年度から指定管理者制を導入予定		指定管理者制導入		文化施設課	○公民館教室の開催 35教室 733名受講 ・短期教室開校 6教室 247名受講 ○公民館祭りの開催 ・ステージ発表9教室、展示発表5教室、パソコン教室の開設 ○作品展示会の実施 会場：市民ギャラリー 6教室。 ○ロビー展を開催し、3団体個人の書・写真・絵画の作品展を実施。 ※平成20年度より指定管理者が運営している。	・老朽化している公民館の対策について検討。	3-8-47		
	図書館自主文化事業	市民の読書意欲の向上と学習活動を促進するための機会を提供 ※平成19年度から指定管理者制を導入				文化施設課	・おはなし会 : 84回開催 ・映画上映会 : 24回開催 ・古典文学読書会 : 24回開催 ・子供読書支援「えほんの森ガイドボランティア」 ・こどもの読書週間「よたかずひこ氏講演会」 ・学校図書館担当者会議の開催 ・童話図書講座「升井純子氏」 ・市民読書グループ「赤毛のアン」の原書朗読の支援 ・夏休みこども読書推進事業 劇団札幌による「スイミー」 ・手作り絵本教室「山田白百合氏」 ・ふるさとポケット協賛事業「あつまれ！おはなしひろば！！」 ・冬休みこども読書推進事業 人形劇団「はべつとコース」公演 ・図書館まつり 絵本作家「あべ弘士氏」講演会	・自主事業を継続し、今後も内容の充実を図る。	3-8-48		
	文化センター自主文化事業	市民の芸術文化の創作活動や鑑賞を行う拠点として、市民が多様な芸術文化活動に親しみ、楽しむことができる機会を提供 ※平成19年度から指定管理者制を導入				文化施設課	・6月12日（大ホール）爆笑！お笑いバトル2010 ・6月13日（大会議室）千歳学生寄席 ・7月19日（中ホール）鈴木一恵ピアノリサイタル ・7月31日～8月1日（中ホール）日本映画「ちとせ2010」 ・8月12日（プラネタリウム）Planetarium Lounge Vol.3 ・8月21日～22日（全館利用）文化祭2010 ・9月25日（中ホール）辻井いつ子 講演会 ・12月19日（大ホール）クリスマスファミリーコンサート ・2月6日（中ホール）高校演劇夢舞台2011 北陽高校&千歳高校 ・1月30日（大会議室）演劇「ワタリガラスのおはなし」 ・2月13日 子ども劇場人形劇「のんのんたんとちびうさぎ」 ・2月18日（大ホール）オレンジレンジ コンサート ・3月27日（大ホール）札幌交響コンサート inちとせ	・魅力ある事業企画の検討。	3-8-49		
	公共施設予約システム導入事業【新規】	社会教育施設やスポーツ施設間を結ぶネットワークを活用し、施設利用予約管理を一元化し、インターネットや携帯電話から社会教育施設やスポーツ施設の利用予約が行えるシステムを導入		システム導入準備	システム運用開始	文化施設課	・全庁的な取り組みの中で導入の検討が必要であることを確認。	・千歳市地域情報化計画の中で取り組んでいく。	3-8-50		

II 人の魅力で輝く生涯学習都市千歳の実現

基本 目標	施策	事業名	事業内容	H19	年次計画			所管課	平成22年度		進捗状況	番号
					H20	H21	H22		取組実績等			
地域資源の活用による生涯学習の推進	生涯各期に応じた学習機会の提供	千歳学出前講座	「市民編」市内で活動している団体・グループによる講座 「企業編」市内の企業、事業所、学校などが持っている豊富な知識や技術を紹介 「市役所編」市政や各制度の概要を市役所職員が説明				生涯学習課	・市内に在住、通学、勤務する5名以上の団体・グループを対象に千歳市生涯学習まちづくり出前講座（愛称「千歳学出前講座」）を行った。 ・毎年出前講座のメニュー表を作成し各家庭へ配布するとともに、市ホームページへの掲載を行った。 講座数 仕事編31講座、市民編55講座、市役所編152講座、計238講座 実施講座数 仕事編7回、市民編62回、市役所編337回、計406回 受講者総数 仕事編193人、市民編1,977人、市役所編13,078人、計15,248人	・受講者数も増加傾向にあり、市民の学習意欲も多様化していることから、さらに効果的に利用しやすいようにするため、講座内容を充実させるための検討が必要。	3-9-51		
		生涯学習まちづくりフェスティバル「ふるさとポケット」	“我がまちを想う情熱・自主的な活動・人とのふれあい”を大切に、自由な市民活動の交流の場、市民主体のまちづくりを考える場、学び合い・高め合う場、ふるさと千歳の再発見の場として、「生涯学習のまちづくり」を目指すために多くの市民の方々の参加により実施				生涯学習課	○第15回ちとせ生涯学習まちづくりフェスティバル「ふるさとポケット」 ・日時 平成22年9月26日 ・会場 青葉公園内（なかよし広場、園路、図書館） ・来場者 約18,000人 ・参加団体 41団体（647人） ○実施による効果 人と人との交流・ネットワーク化、我がまちを思う気持ちやふるさと千歳の再発見といったまちづくりを考え、自己を高めるきっかけをつくることができた。	・事業を効果的に実施するため、開催趣旨の再確認。 ・人材の発掘とリーダーの養成。	3-9-52		
		生涯学習まちづくり推進事業	市民教養セミナー、パソコン講習会、英会話教室等の開催				生涯学習課	・市民教養セミナー 開催回数6回 参加者 延べ809名 ・パソコン講習会 講座数43講座 参加者 延べ487名 ・英会話教室 開催回数12回（昼の部・夜の部）参加者 計37名	・市民教養セミナーは、専門的知識を有する関係団体と連携して実施。 ・パソコン講習会は、市民ニーズに合った講習内容となるよう努める。 ・英会話教室は、参加者レベルに対応した内容の精査に努める。	3-9-53		
		高齢者学級開催事業（高星大学、若返り学園）	高齢者が充実した生活を送るために、自ら進んで学習活動や社会的活動を続けながら高齢期の生きがいや社会参加を促すための学習機会として、「千歳高星大学」と「千歳市若返り学園」を開講				生涯学習課	○千歳高星大学（10期生） ・学生 47名 ・開催時期 4月から12月まで ・講義・演習時間 延べ50時間 ○千歳市若返り学園 ・会員数 428名 ・内容 サークル活動、映画鑑賞会、講演会、レクリエーション等	・千歳高星大学 学んだことを地域で生かせる学習プログラム構成の検討。 ・千歳市若返り学園 趣味や生きがいに対応した行事内容の検討。 ・両取組とも、継続して実施する。	3-9-54		
		社会教育活動支援事業	社会教育関係団体・人材バンク登録、情報提供				生涯学習課	○社会教育関係団体の登録 ・社会教育関係団体登録数 379団体（平成22年度末） ○千歳市人材バンク登録（登録者21人） ・家庭教育・地域交流事業の支援 1人 ・一般教養等学習機会の支援 5人 ・スポーツ・レクの支援 7人 ・文化・芸術活動の支援 8人	・人材バンク制度の支援活動を出前講座に移行し統合を進める。 ・学校支援地域本部事業の支援ボランティアとして、特技を生かせる場の提供検討。	3-9-55		
		千歳市民活動交流センター「ミナクル」管理運営事業	市民活動の場、市民活動に関する情報提供の場、また、活動に関する指導・相談の場として、市民の自主的な活動や交流を積極的に支援する市民活動の支援拠点施設を運営 ・平成20年度からは、市民協働事業として、市民活動団体が運営			市民活動団体による運営開始	生涯学習課	・ミナクル利用者数 8,681人 利用件数 3,412件 ・ミナクル通信 4回の発行 ・ミナクルサロン 6回開催 ・ミナクル祭り 参加者210人 ・ホームページによる施設利用案内、市民活動等の情報発信（更新42回） ○事業の成果 利用者数については前年比3%増、利用件数は前年比21%増加しており、市民の自主的な活動や交流に対して、きめ細かな支援が効果的に実施された。 さらに、市民活動の場、市民活動に関する情報提供の場、又活動に関する指導・相談の場として、市民の自主的な活動や交流を積極的に支援するなど、生涯学習活動の拠点機能としての整備が図られた。	・業務内容や利用者の対応について研鑽が必要。 ・市民へのPR方法などの検討。	3-9-56		
生涯スポーツの振興	市民皆スポーツを目指して	スポーツ普及推進事業	市民皆スポーツを目指して年齢、体力、技量に応じ、いつでも・どこでも・だれでもが親しむことのできる生涯スポーツを推進するために、各種の事業を展開する。				スポーツ課	主な事業及び参加者数 ・秋の市民歩こう会 参加者 41名 ・市民交流会（キンポール、ドッチビー） 参加者 30名 ・千歳学出前講座 開催数13回 参加者 570名 ・千歳JAL国際マラソン 参加者11,213名 ・ちとせホルメンコーレンマーチ 参加者 416名 ・千歳ジュニアスポーツフェスティバル 参加者 801名 （軟式野球等計11種目）	・継続して実施。	4-10-57		
		学校施設開放事業	小中学校の体育館、グラウンド、プール、スケートリンクを開放する。 ・体育館、グラウンド 24校 ・プール 9校 ・スケートリンク 11校				スポーツ課	・体育館 121,140人 ・グラウンド 57,246人 ・プール 19,224人 ・スケートリンク 54,161人	・スポーツ活動等の場を、より多くの市民に提供するため、利用しやすい管理運営に努める。	4-10-58		

II 人の魅力で輝く生涯学習都市千歳の実現

基本目標	施策	事業名	事業内容	H19	年次計画			所管課	平成22年度 進捗状況		番号
					H20	H21	H22		取組実績等	実施課題・平成23年度以降の方針等	
生涯スポーツの振興	市民皆スポーツを目指して	スポーツ指導者配置事業	多様なスポーツ種目の相談・指導にえられるようスポーツ指導の体制と情報提供を充実					スポーツ課	主な派遣事業及び派遣者数 ○体育指導委員18名、スポーツ指導員32名を委嘱 ・秋の市民歩こう会 派遣者数 9名 ・市民交流会（キンボール、ドッチビー） 派遣者数 24名 ・スナックゴルフ普及事業 派遣者数 64名 ・千歳学出前講座（派遣回数13回） 派遣者数 68名 ・スポーツセンター、武道館での実技指導（年間延人数） 派遣者数438名 ・JALマラソン支援（前日・当日） 派遣者数 68名 ・市職員採用試験 派遣者数 2名 ・健康まつり 派遣者数 4名 ・ちとせホルメンコーレンマーチ支援 派遣者数 33名 ・スポーツ教室・事業支援 派遣者数648名	・二つの指導者制度を有していることから、統合・廃止等も含めた組織見直しの検討。 ・財団法人千歳市体育協会との連携。	4-10-59
		スポーツ施設整備事業	スポーツに親しむ場を提供するための施設整備 ・平成20年度の改修・修繕予定施設 駒里プール、市民スキー場管理棟、青空公園スケート場、青葉プール、青葉球場					スポーツ課	・青葉陸上競技場改修 4,137千円 ・アーチェリー場整備 1,911千円	・老朽化した施設の計画的な改修。 ・市民のスポーツ・レクリエーション活動の支援。	4-10-60
		スポーツ施設管理運営事業	安全で快適なスポーツ環境の維持 ・市直営：学校プール、歩くスキー場 ・指定管理者制：武道館、スポーツセンター、ふれあいセンター、屋外施設 ・民間委託：市民スキー場、市営スケートリンク					スポーツ課	・学校プール 開設期間H22.6.25～H22.9.10 利用者数51,386人 ・青葉公園庭球場の管理棟の開放（歩くスキーコースの開設期間中に休息所として） ・スポーツ施設の第2クール目の指定管理（平成21～23年度） 利用者数 スポーツセンター101,740人、武道館135,567人 屋外施設 220,546人 ・市民スキー場のコース整備。	・指定管理期間は、サービスの継続性の確保、指定管理者の人材確保や雇用の継続性を総合的に判断し、平成24年からの3巡目については5年間とする。	4-10-61
		スポーツ情報提供事業	スポーツ参加機会の情報提供と施設の利用促進に向けた情報発信 ・各種スポーツイベントや施設情報等					スポーツ課	・ホームページによるスポーツイベントの案内。 ・千歳市出身スケート選手のオリンピック出場に伴う応援の取り組みを掲載。	・施設予約システムの導入は、千歳市地域情報化計画の中で取り組んでいく。	4-10-62
		温水プールの指定管理者制度導入	市で投入する経費の減と市民サービスの向上を目的として「管理委託」から指定管理者制度に移行する。	課題整理	方針決定、指定管理者決	導入			スポーツ課	○温水プールの第1クール目の指定管理（平成21～23年度） ・利用実績 89,083人 （内訳 一般 62,861人、専用利用者 6,257人、講習会等 19,965人）	・指定管理期間は、サービスの継続性の確保、指定管理者の人材確保や雇用の継続性を総合的に判断し、平成24年からの2巡目については5年間とする。
	スポーツの振興に関する計画の策定	関係機関・団体等と課題整理などを行い、親しみやすさをもてるわかりやすいスポーツ振興計画を策定 ・計画期間（平成23～32年度） 【新規】		課題整理	策定準備	計画策定		スポーツ課	（策定準備） ※生涯学習基本計画に含む	（計画策定） ※生涯学習基本計画に含む。	4-11-64